

評価対象	羅針盤		方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	アンケート			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動全般について、満足している生徒・保護者を80%以上にする。 学校が好きだと感じる生徒を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の開催に当たり、生徒自らが協力し運営する経験を通して、自己肯定感や対人関係能力を向上させる。 教育の質を高めるために、新たな研修制度の周知を図るとともに、全職員が連携して取り組めるよう組織力の向上を図る。 					
		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業満足度を80%以上にする。 授業等の学習活動を通じて、学力向上が実感できた生徒を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上と基礎基本の定着のために、「個別最適な学び」の充実と「指導と評価の一体化」の実現に向けて、職員研修等を通じて授業改善を推進する。 					
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 「発表する力」「聴く力」が高まったと回答する生徒を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や探究活動において、ICT機器を活用するとともに、協働的な学びを充実させ、生徒の表現力やコミュニケーション力を高める活動を積極的に挙げる。 					
		<ul style="list-style-type: none"> 読書指導を継続的にを行い、読解力を付け、表現力を高めていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「伊勢崎高校図書館蔵書検索」を活用し、図書館利用を活性化。また学年団・各教科と連携し、「読書の記録」を活用した読書指導を継続的に挙げる。 読解力を高めるためのワークシートを定期的に配信し、様々な分野に関する要約・読解問題に取り組ませる。 					
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ違反数や自転車事故件数を昨年度以下にする。 学校全体のヘルメット着用率を100%にする。 悩み等の相談体制への満足度を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導や交通安全指導など日頃から行っている指導内容について、生徒たち自身が主体的に考え、取り組めるような活動を行うことで、生徒の主体性を育成し、自己管理能力の向上を図る。 ヘルメット着用について生徒が主体的に考え、交通安全に対する意識向上を図る。 スクリーニングや日常の生徒観察等を充実させ、悩みを持った生徒を早期に把握し適切に指導するとともに、スクールカウンセラーと連携して組織的に対応する。 					
		<ul style="list-style-type: none"> SNS等に関するいじめや犯罪被害をなくす。 いじめの発生防止に努め、いじめの解消率を100%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 伊高SNS利用宣言について各クラスで周知徹底し、生徒がICTの活用について主体的に考えることで、情報モラルの向上を図る。 いじめ悩みアンケートを年に3回実施し、いじめ防止と早期発見に努める。また、いじめ防止フォーラムの情報を学校全体で共有し、いじめについて生徒たちが主体的に考える場面を設定する。 					
7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動等の学校生活に主体的に取り組んでいる生徒の割合を80%以上にする。 「挨拶がきちんとできる」と回答する生徒を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動等を通して、心身の鍛錬や社会性の育成など人間力の向上を目指し、部活動の振興を図ることで、学校全体の活気につなげる。 ボランティア活動や探究活動への積極的な参加など、生徒の活動意欲を高める指導を継続し、生徒の主体性の向上につなげる。 						
	<ul style="list-style-type: none"> 進路を意識して学習する生徒を60%以上にする(1年)。 具体的進路目標の定まった生徒を70%以上にする(2年)。 進路目標が定まり、学校からの進路情報が有意義であったと考える生徒を90%以上にする(3年)。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会(保護者対象)、進路ガイダンス(生徒対象)、進路情報誌の配付等により、進路意識の高揚を図る。 「スタディサポート」「学びみらいPASS」等を活用して学力と進路意識向上を図り、進路希望の実現につなげる。 						
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	<ul style="list-style-type: none"> 「学年+1時間の学習時間」を確保しようとしたと回答する生徒を70%以上にする。 						
		<ul style="list-style-type: none"> H P等情報発信をよりタイムリーに更新できるようにする。 学校説明会、オープンスクールにおいては様々な発信方法を視野に入れつつ、来場者・閲覧者数を昨年度以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な情報発信ツールの活用と内容の充実を努める。 「伊高だより」等を定期的に発行し、保護者や地域、中学校等に学校の活動を伝え、それらをWebページ等でも公開する。 					
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	1 ICTを活用した指導を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に学習用端末を活用する職員を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一台学習端末及びBYODに対応した授業がより充実できるような環境や体制を整備する。 					
		<ul style="list-style-type: none"> 授業以外の業務でICTを活用できる職員を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用した職員研修及び授業研究会を実施し、職員の資質向上を図る。 					
VI 教育デジタル化に努めていますか。	1 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> 年3回、県立女子大との連携を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 県立女子大外国語教育研究所の研究員によるコミュニケーションを重視した学習の実践を通して、高大連携の強化を図る。 					
		<ul style="list-style-type: none"> グローバル人材の育成に向けて、実践的コミュニケーション能力の育成推進を図っていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> 英検2級以上の合格率を普通科20%以上、グローバルコミュニケーション科50%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 英検などの資格試験の受験を推奨し、自己目標を設定させ、英語学習の意欲を喚起する。 				
	4 国際理解教育の充実を図っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> グローバルコミュニケーション科の英語学習プログラムについて、満足している生徒を80%以上にする。 異文化に興味を持つ、グローバルコミュニケーション科生徒を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語学習プログラムの実践や国内や海外の英語研修(派遣・受入)のプログラムを通して、生徒の実践的コミュニケーション能力の向上を図ると共に異文化理解を深める。あわせて、オンラインでの国際交流も模索する。 					